

麻

疹

輕ろろくする

法

ひらき
終の葉
も

多羅樹

一、夜にさう終るゝを
三十三軒まで一般にあらひあつめせて
さうせぬ小唄を吞へてうらけて
さうひな

多羅樹葉一枚之重

ひさどの
孝成

生也

古くして

我之ありき

上ノ哥をうたはしうせぬ
 小との名と年をうたへ
 川は流はしうせぬ
 餘病もいては

毒ぞと

奥^{おく} ち^ちの 竹^{たけ}の子^こ きの子^この
 おぶ^{おぶ}ら^らげ^げ ま^まの^の め^めん^んの^の い^いく^くの^の
 め^めま^まむ^む 玉^{たま}子^こ そ^その^の ま^まめ^め あ^あの^の ま^まめ^め
 悔^くつ^つけ^け 初^{はつ}つ^つけ^け 五^ご十^{じゅう}日^{にち}忌^いめ^め——
 は^はさ^さま^まば^ばよ^よう^うい^いく^くを^を 難^{なん}症^{しょう}と^とあ^ある^る 病^{びょう}事^じ

此は其のよぐいそ程とある事、
 今

直雲

乃種穀画

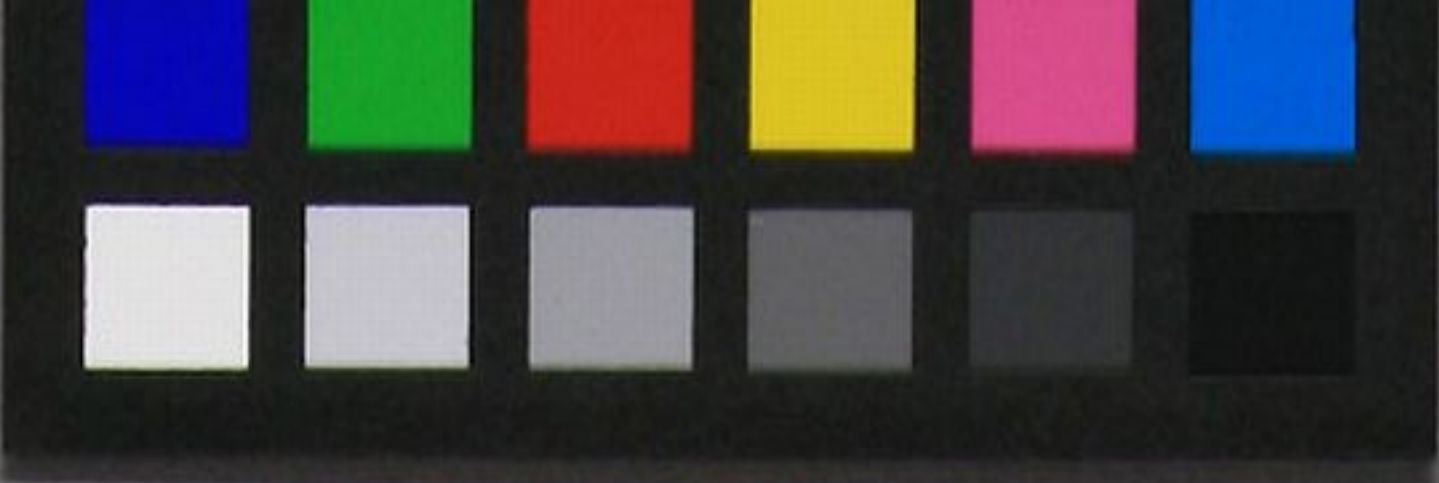
馬喰四
木屋板

後孫

戲魚

馬喰四木屋板





麻

疹

軽くする
法

ひいらぎ
柎の葉

多羅樹
葉

一昔分の夜間はさしこみ柎の葉を
三十三軒ふて一枚もらひあつめせて
ほしくせぬ小児は吞けこみしめて
こころひな

多羅樹葉一枚とる

むきどの
麦皮

生かすふ

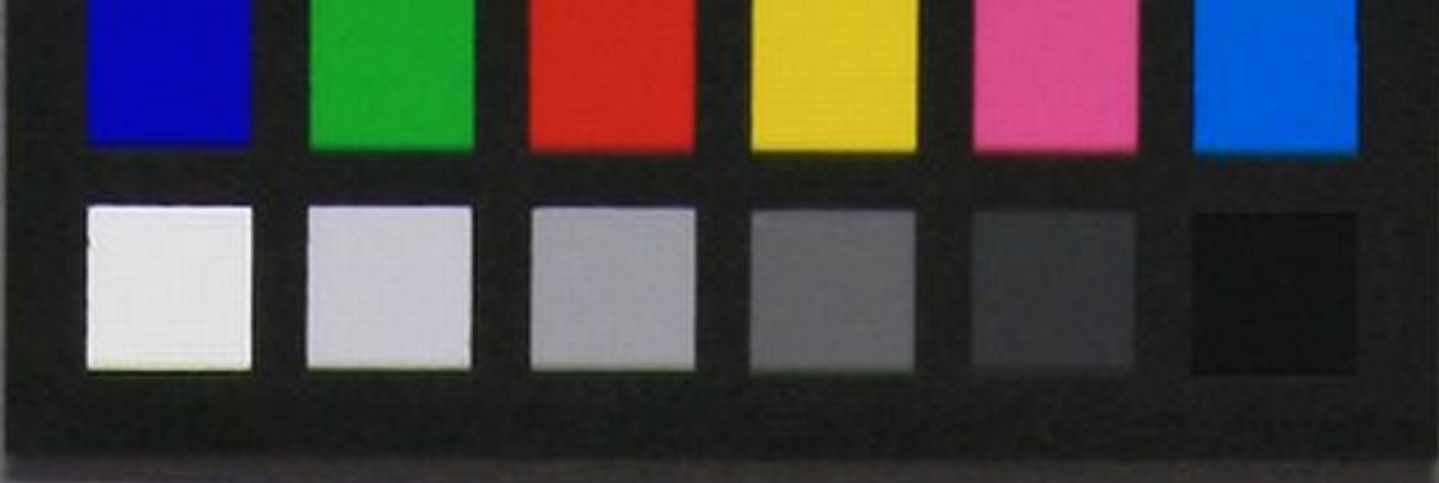
まじりしめてる



魚雲
馬喰
木屋

馬喰
木屋





「のらへ 我之りりり」

とつみ寄とるたしうせぬ
かとものおと年とるたて
川は流はくうならぬ
く餘病もいては

毒ぞて

真名 ちる 竹の子 きの子
あぶらげ きのもの めんたい きのもの
みさび 玉子 そらまめ うさぎ
梅つけ 和つけ 五十日忌
ほさきばよりいそ 難事とある事 難事



後程

馬喰四
木屋板

